· .	Tory of Academic resouces
Title	漢方医学的体質診断を元にした未病対策のための基礎的研究
Sub Title	Improvement of ME-BYO based on Kampo pattern diagnosis
Author	渡辺, 賢治(Watanabe, Kenji)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2018
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2017.)
JaLC DOI	
Abstract	【背景】漢方医学的体質診断である証は、西洋医学の病名とは異なり、全人的な観点から心身の状態を判定する。この証についてはWHOも国際疾病分類の中で開発を進めてきて、2018年6月にリリースされる予定である。医学部と湘南藤沢キャンパスの倫理委員会で承認を受け、実方医学センター外来の診療情報をもとに、「証」の予測を立てることを試み、「虚実」「乗熱」は9割の精度で予測を立てることが可能となった。この予測は神奈川県の委託で開発した「未病チェックシート」でも活用されている。 【目的】漢方医学的体質診断である証を簡便に導くようなシステムの構築を行い、未病改善につなげるベースを構築する。 【方法】1)慶應義塾大学病院における自動問診システムを用いた漢方の診療情報収集の継続、2)自動間診システムの多言語化、3)未病チェックシートの多言語化、4)未病チェックシートの活用方法の検討 【結果】2016年度の学事振異資金で行った。自動問診システムの問診項目のスリム化によって、同診項目数は412か687へと削減され、これを新システムの問診項目とした。さらに、昨年度から進めてきた多言語化については、英語、ドイツ語、ポルトガル語、簡体字、繁体字、ハングルになり、システムに実装された。それとともに、未病チェックシートも多言語化を行い、疾語、ドイツ語、ボルトガル語、簡体字、繁体字、ハングルになり、システムに実装された。それとともに、未病チェックシートも多言語化を行い、疾語、耐体学、繁体学、カングルになり、システムに実装された。それとともに、未病チェックシートも多言語化を行い、実語、簡体字、繁体字、カンガルでになり、システムに実装された。それとともに、未病チェックシートまたはその簡易版による未病改善の検討については、現在いくつかの候補が挙げられている。一つは高齢者向けのカラオケに証の診断アプリを搭載する人という話である。未の手ェックシートまたはその情易版による未病改善の検討については、現在いくつかの候補が挙げられている。一つは高齢者向けのカラオケに証の診断アプリを搭載する人という話である。二つ目は健康経営支援アプリとして応用する、よいう話である。三つ目は健康経営支援アプリとして応用する、おり言語を検討を続けていきたい。【基結】漢方の体質診断を未病改善に応用するペースはできたの、今後はその応用につき、さらに検討を進める予定である。【Background】 Kampo diagnosis focuses whole human condition、which is called "pattern diagnosis"、This pattern diagnosis system has been developed by WHO and it will be in the international classification of diseases (ICD) next version (ICD-11)、which will be released in June、2018. Pattern diagnosis, such as "deficiency-excess" or "cold-heat" were predicted by the computer with accuracy over 90% from the medical information collected in Keio University Hospital、This prediction is applied for ME-BYO check application or derived system. 【Purpose】 Developing the system which leads to Kampo pattern diagnosis readily, and create the foundation leading to the improvement of ME-BYO. 【Method】 1) Collecting medical information in the Kampo clinic in Keio University Hospital, 2) Multillingualization (English, German, Portuguses, simplified Chinese, and traditional Chinese, and Hangul. ME-BYO check application is also available in Japanese, English, simplified Chinese, and Hangul. ME-BYO check application is also available in Ja
Notes	
Genre	Research Paper
001110	li tagagii i i i i i i i i i i i i i i i i i

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.	
rublisners/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.	

2017 年度 学事振興資金 (個人研究) 研究成果実績報告書

研究代表者	所属	環境情報学部	職名	教授(有期)	補助額	500 (特B)千円
	氏名	渡辺 賢治	氏名(英語)	Kenji Watanabe		500 (特B)千円

研究課題 (日本語)

漢方医学的体質診断を元にした未病対策のための基礎的研究

研究課題 (英訳)

Improvement of ME-BYO based on Kampo pattern diagnosis

1. 研究成果実績の概要

【背景】漢方医学的体質診断である証は、西洋医学の病名とは異なり、全人的な観点から心身の状態を判定する。この証についてはWHOも国際疾病分類の中で開発を進めてきて、2018年6月にリリースされる予定である。医学部と湘南藤沢キャンパスの倫理委員会で承認を受け、漢方医学センター外来の診療情報をもとに、「証」の予測を立てることを試み、「虚実」「寒熱」は9割の精度で予測を立てることが可能となった。この予測は神奈川県の委託で開発した「未病チェックシート」でも活用されている。

【目的】漢方医学的体質診断である証を簡便に導くようなシステムの構築を行い、未病改善につなげるベースを構築する。

【方法】1) 慶應義塾大学病院における自動問診システムを用いた漢方の診療情報収集の継続、2)自動問診システムの多言語化、3) 未病チェックシートの多言語化、4)未病チェックシートの活用方法の検討

【結果】2016 年度の学事振興資金で行った、自動問診システムの問診項目のスリム化によって、問診項目数は 412 から 87 へと削減され、これを新システムの問診項目とした。さらに、昨年度から進めてきた多言語化については、英語、ドイツ語、ポルトガル語、簡体字、繁体字、ハングルになり、システムに実装された。それとともに、未病チェックシートも多言語化を行い、英語、簡体字、繁体字、ハングルでの入力が可能である。未病チェックシートまたはその簡易版による未病改善の検討については、現在いくつかの候補が挙げられている。一つは高齢者向けのカラオケに証の診断アプリを搭載する、という話である。二つ目は健康経営支援アプリとして応用する、という話である。三つ目は朝粥を漢方の証に応じて選択するアプリである。まだ検討段階であるが、引き続き検討を続けていきたい。【結論】漢方の体質診断を未病改善に応用するベースはできたので、今後はその応用につき、さらに検討を進める予定である。

2. 研究成果実績の概要(英訳)

[Background]Kampo diagnosis focuses whole human condition, which is called "pattern diagnosis". This pattern diagnosis system has been developed by WHO and it will be in the international classification of diseases (ICD) next version (ICD-11), which will be released in June, 2018.

Pattern diagnosis, such as "deficiency-excess" or "cold-heat" were predicted by the computer with accuracy over 90% from the medical information collected in Keio University Hospital. This prediction is applied for ME-BYO check application developed under the grant on aid by Kanagawa.

[Purpose] Developing the system which leads to Kampo pattern diagnosis readily, and create the foundation leading to the improvement of ME-BYO.

[Method] 1) Collecting medical information in the Kampo clinic in Keio University Hospital, 2) Multilingualization of questionnaire system, 3) Multilingualization of ME-BYO check application, 4) Developing the application of ME-BYO check application or derived system.

[Result] The number of question items has been decreased from 412 to 87 by Keio Gijuku Academic Development Fund in 2016. Multilingualization (English, German, Portuguese, simplified Chinese, and traditional Chinese, and Hangul. ME-BYO check application is also available in Japanese, English, simplified Chinese, and traditional Chinese, and Hangul. Application of ME-BYO check for the improvement of ME-BYO are, 1) system for aged people in Karaoke, 2) Supporting for healthy management, and 3) choosing morning porridge. I will continue to pursue the possibility.

[Conclusion] Kampo pattern diagnosis system has been established. It is necessary to aim at the application of ME-BYO check system.

System.							
3. 本研究課題に関する発表							
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)				
渡辺賢治	伝統医学が国際疾病分類(ICD)に 入る意義その 1	漢方の臨床	2017; 64: 613–621.				
渡辺賢治	伝統医学が国際疾病分類(ICD)に 入る意義その 2	漢方の臨床	2017;64: 733–742.				
渡辺賢治	伝統医学が国際疾病分類(ICD)に 入る意義その3	漢方の臨床	2017; 64: 849–858.				
渡辺賢治	伝統医学が国際疾病分類(ICD)に 入る意義その 4	漢方の臨床	2017; 64: 959–969.				
有田龍太郎,吉野鉄大,堀場裕子,引網宏彰,嶋田豊,並木隆雄,田原英一,南澤潔,村松慎一,渡辺賢治	患者中心の自動問診システムを目 指した課題抽出とその解決	日本東洋医学会誌	受理済み				